終戦60年を迎えます

今年で終戦60年を迎えます。戦後生まれが人口の7割を超えた今、戦争の記憶は一層風化しつつあります。私たちの普段の暮らしにおいても、テレビや新聞などでしか目にする機会はないため、益々自分たちとは、かけ離れた世界のように感じさせるのではないでしょうか。熊野町にお住まいの戦争経験者の方々に直接お話を伺いました。

光本吉伯さん（萩原）

出発前夜

昭和20年、その当時青年師範学校2年生であった私は、陸軍甲種予備士官学校を受験し、合格を果たしました。入学前日には近所の人がたくさんの幟を持って家にやって来て、日ごろ口にすることのない、酒や魚で祝いをしてくれました。出発になると、その幟を持って、中溝のバス会社まで皆が「ばんざい」と見送りしてくれました。

こうした地域については、熊野町は昔からの伝統や風習が根強く残っており、現在のまちづくりのうえで大事にしたいと思います。

広島駅で見送り

私と見送りに来てくれた家族の者が広島駅に着いたのが、8月5日の夜。翌日に久留米の学校で広島が壊滅状態であることを知らされました。

気がかりなのは、見送りに来ていた家族です。熊野、矢野へそれぞれ帰っていたので無事でした。

甲種予備士官学校にて

予備士官学校では口ケット砲の隊へ入りました。そこでは、砲弾を背中に背負っては、ほふく前進を繰り返す訓練をしました。

河原で訓練をしていた時のことです。突如「キーン」といった甲高い音が聞こえてきたかと思えば、「ダダダッ」と私たちは突然敵機からの機銃掃射を受けました。運悪く、学生の一人がその銃弾を浴びて亡くなったことを覚えています。

やがて久留米市も空襲を受け、田舎の小学校の体育館へ行くこととなりました。

8月15日

8月15日、小学校の校庭で詔勅を聞き、終戦を知らされました。

そのころは負けるなんて思うことは無かったし、口にすることは絶対にできませんでしたが、空襲により都市が焦土となったり、近くは呉市や広島市が破壊されたりして、初めて「負けるかもしれんな」と心の中では感じていました。

とにかくその時は、日本が負けたんだ、という思いよりも「命が助かったんじゃ」という思いの方が強く湧いてきました。

また、夜中に灯りを堂々と灯せたことなどは、何よりも戦争が終わったんだという実感を与えてくれました。

時光敏視さん（新宮）

学校での様子

そのころに高等1、2年生（現在の中学1、2年生）であった私たちの年代は、ほとんど机に向かう勉強はしませんでした。勉強をしない代わりに勤労奉仕として、よく兵隊に行った後の家へ農業を手伝いに行ったものです。つらいなんて思うことはありませんでした。皆さんもご存知のとおり、その頃の学校においては、日本は神の国で、この戦争には絶対勝つと教えられていました。今の常識じゃあ考えられないかもしれませんが、当時はそれが常識で、今の価値観で判断できるようなものじゃありません。とにかくそういう時代だったのです。

熊野に爆弾投下

終戦も近づいた昭和20年ごろ、家の外で「ドカン」という大きな音がしました。慌てて外へ見に行ったら、深原から初神、庄賀地に向かって爆弾が5発くらい落とされて、大きな穴が空いておりました。

軍需工場にて

当時、中溝のあたりに軍需工場があって、私も学校卒業後そこに通いました。軍需工場1年目の夏、8月6日。突如大きな爆発音が聞こえました。工場の皆で急いで外に飛び出し、広島の方を見ると、大きなきのこ雲が上がっていました。「たぶん、坂のガスタンクが爆発したんじゃろう」という話にその場ではなりましたが、午後になって事実を知りました。そのときの真夏の太陽でギラギラ光ったB29の姿は、今でもはっきりと脳裏に焼き付いています。

それからしばらくして、ぼろぼろになった人たちが熊野でも見受けられるようになり、宗盛医院の前に被爆者の行列ができていたのを記憶しています。

ある女性の方より

昭和17年に私は熊野の小学校に赴任することとなりました。

熊野にも親戚などを辿っての疎開が多く、写真の半分の子どもは疎開の子でした。疎開して来た親の方はどうしても忙しいため授業参観などは出席できず、その子ども達は寂しい思いをしたようです。しかし、普段は地元の子と山へ行ったり、池で泳いだりして仲良く遊んでおりました。

その時代に、学校の当直として学校に泊まることがありました。暗く静まり返った学校は大変心細いものですが、そんな時に子ども達が3～4人こっそりと来てくれていました。一緒にご飯を食べたり、みんなで校庭に出て歌を歌ったりしたものです。そして、朝方になったらみんな家に帰って行きました。何も無い時代でしたが、当時の楽しかった思い出の一つです。

8月6日

8月6日の朝、いつもの朝を迎えていましたが、「ドカーン」という音が突如学校に響き渡りました。私は、急いで子ども達を机の下に隠れさせました。その後、広島に原爆が落とされたことを聞きました。私の兄が広島にいたため、私は原爆投下2日目にして広島へ兄の捜索に向かいました。そのときの惨状は、口では言い表せません。

昭和から平成と60年経った今でも先の大戦は多くの問題を残しています。これを機会に、当時を思い出された方は若い世代へ語り、若い人は身近な戦争体験者の声に直接耳を傾け、それぞれが本当の平和というものについてもう一度考えてみてはいかがでしょうか。

（企画課）

特殊地下壕実態調査にご協力をお願いします

今般、鹿児島県の特殊地下壕（防空壕）で発生した、中学生の死亡事故を受け、国による実態調査が行われております。

この調査は、戦時中に造られ、現在も残っている防空壕の現況を把握し、今後の対策等の検討資料にするものです。

熊野町においては、調査開始より町民の方のご協力により、新たに数件の防空壕が発見されております。調査は、引き続き行われておりますので、情報をお持ちの方は、ご連絡をお願いいたします。

問合せ先　都市整備課
TEL 820-5608
（都市整備課）

戦没者等のご遺族の皆さまへ

―第8回特別弔慰金が支給されます―

対象者

戦没者等の死亡当時のご遺族で、今年4月1日において、公務扶助料や遺族年金等を受ける方がいない場合に、次の順番による先順位のご遺族お一人

1 弔慰金の受給権者
2 戦没者等の子
3 ①父母②孫③祖父母④兄弟姉妹（戦没者等と生計関係を有していなかった方等は除かれます）
4 右記3以外の①父母②孫③祖父母④兄弟姉妹
5 右記1から4以外の三親等内の親族（戦没者等の死亡時まで引き続き1年以上生計関係を有していた方に限られます）

支給内容
額面40万円、10年償還の記名国債

請求期間
平成20年3月31日まで

問合せ先
福祉課　社会福祉係
TEL 820-5605
（福祉課）